

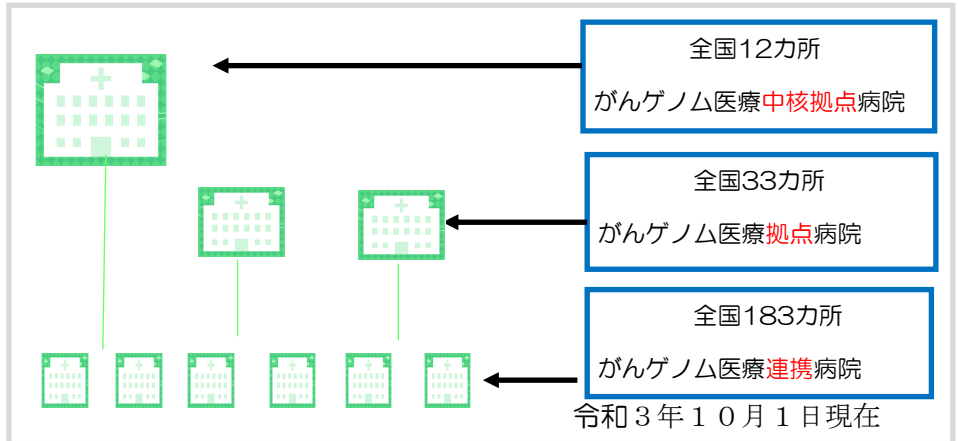
## がん相談支援センターだより



近年の分子生物学的発展によって、がんの発症に関わる遺伝子（ゲノム）の変化に対して適している薬が見つかるようになってきました。そしてたくさんの遺伝子を調べることで、その確率を上げることが行われています。今回は、このような「がんゲノム医療」について臨床検査医学科・遺伝相談室の中山智祥先生に執筆を依頼しましたのでご紹介します。

## 「がんゲノム医療」とは

全国に12施設あるがんゲノム医療中核拠点病院、33施設のがんゲノム医療拠点病院、183施設のがんゲノム医療連携病院が進める医療です。日本大学医学部附属板橋病院は連携病院として中核拠点病院の東京大学医学部附属病院と定期的に相談しながら「がんゲノム医療」を進めています。



2019年6月に保険が通った（保険収載された）がんゲノムプロファイリング（遺伝子パネル）検査では100個以上の遺伝子を調べて効果のある薬を見つけ出すことを目的としています。自分に合う薬の使用（臨床試験を含む）に結びつく人は全体の10%程度といわれています。結果が出るまで2か月程度かかります。

## 「がんゲノム医療」を受けるには

がんゲノムプロファイリング検査をご希望の方は現在治療を担当している主治医に相談してください。当院で過去に摘出術手術や検体採取が行われた方が対象でしたが、2021年8月からは血液で可能な検査も保険収載されました。子孫に遺伝するような遺伝子の変化が偶然見つかることもありますので、検査の前後に遺伝カウンセリングを行います。一般の外来診療とは異なり、完全予約制としてお時間をおとりします。血のつながったどの方が何の病気で何歳の時にどうなったかの情報を事前に集めておいていただければ役立ちます。遺伝カウンセリングでは、同意書にサインをいただきます。ホームページも参考にしてください。

(<https://www.itabashi.med.nihon-u.ac.jp/cancer/genome>)

## 「がんゲノム医療」の検査の対象者について

がん遺伝子パネル検査は誰でも受けられるわけではありません。一般的には①標準治療がない固形がん（造血器腫瘍は含みません）、②局所進行もしくは転移があり、標準治療が終了した（終了見込みを含む）固形がんの方で、次の新たな薬物療法を希望する場合に検討します。また全身状態などの条件もあります。

## 「がんゲノム医療」への期待

全国で行われるがんゲノムプロファイリング検査の結果は、個人情報伏せられた形でがんゲノム医療管理センターのコンピューターに集約されます。日本人のデータが大規模に解析されることによってがんの遺伝子と治療法との関係がもっと解明されると期待されています。

**おしらせ** 前号でお知らせしたWEBがん患者セミナー「傷病手当金について」の動画が11月4日からR4年3月31日まで病院ホームページで公開されます。どなたでもご視聴いただけますのでぜひご覧ください。

日本大学医学部附属板橋病院 がん相談支援センター

東京都板橋区大谷口上町30-1 電話3972-0011（直通） 3972-8111（代表）内線3169

相談対応時間 8:30~12:00, 13:00~16:00 予約受付時間 8:30~16:30